

(仮) 住宅部会版住まいづくりの教科書 についての提案書

2021.03.22 市民住宅講座 WG 主査 宮島亨

これまでの経緯

住宅部会ではサロンの部会活動とは別に、問題意識や関心を持った仲間同志でワーキンググループ(WG)をつくり、それぞれが目的やミッションを持ち活動してきました。

その中の一つである市民住宅講座 WG は 1995 年阪神・淡路大震災を契機に**住まいづくりの正しい情報を一般の方に伝えよう**と活動を開始しました。**出発は「暮らしと住まいの相談室」という名称**でした。活動はセミナーという形が中心ですが、それだけではなく、まち歩きなども行ってきました。

1995 年当時は、非常に多くの住家が被害を受けたことから、とにかく安全で安心な住まいについて正しい情報を伝えることの重要性を強く感じた、と伺っています。2011 年東日本大震災以降においては福島第一原発の事故からエネルギーの問題や地球温暖化対策に対し待ったなしの現状であることから持続可能な社会に向けての問題意識を強く持ち WG の活動をしてきました。

ここ暫くは、住まいについてのセミナーが様々なところで行われ、住宅部会主宰のセミナーであることの差別化が難しかったことや、インターネットの普及による情報収集の方法の変化もあり、なかなか多くの方に聴講いただけない状況となっており、**従来からの教室型のセミナー形式とは別の形での情報発信の検討が必要**であることは度々 WG にもおいても議論されてきました。

そのような中、昨年新型コロナウイルス感染拡大により、現実的にこれまでのようなセミナーが不可能となりました。今できることとして、これからの暮らしや住まい、環境に対する私たちの価値観は変わるのか！？という視点からコラムを始めました。コラムを始めて、個々の建築家の視点から書かれたものであるものの、そこにはこれまでの住まいからの変化の必要を訴える視点よりもむしろ、改めて大切だと気がついたことに対する視点が多かったように思います。このコラムは住宅部会として住まいについて発信しているコンテンツの一つです。もちろんこれまでセミナーの場で直接語りかけることを行ってきましたが、アーカイブすることは難しく、そのことは課題ともなっていました。

提案の目的 (建築家との住まいづくりについてのガイドブック)

上記のことから今、できる**対市民活動(公益活動)**として、**建築家との住まいづくりについてのガイドブックを著すことを提案したい**と思います。

このガイドブックが対象とされる方については、これまでのセミナーでもそうであったと思われませんが、建築家との住まいづくりに関心のある人、建築家という存在は聞いたことがあっても、その役割、関わり方、業務範囲などについての理解は当然個人差があり、現在住まいづくりを考えている人だけではなく、将来に備えて準備をしようと思っている人もいると思います。従いまして、なるべく、専門用語用いず、読みやすいものが望ましいと思います。このガイドブックを目にした人は、建築主の

視点から時系列に、建築家とどのように住まいづくりが行われるのかを理解できるものであると良いと思います。また同時に、住宅部会の建築家が取り組む姿勢やプロフェッションの理念が直接的な表現からではなく、伝わるのが公益社団法人 日本建築家協会住宅部会にとって大きな意味があると思います。**住宅部会の建築家のスタンス**を感じてもらうことが社会的信用を得ることに繋がると思います。

具体的な内容と進め方（議論・勉強することから始める）

まず、個人ではなく、住宅部会が著すものであるという意味について共有すべきだと思います。これは個人の顔を出さないという事が言いたいわけではありません。建築家は皆それぞれ個性があり、哲学を持っており、その信念のもとに自身の言葉で語る方が読む側にとっても説得力があり魅力的に感じると思います。

改めて言うまでもなく、**建築家カタログ的な作品発表の場であるべきではない**と思いますし、セミナーにおいてもそうであったように **How to 本も違う**と思います。もっと**本質的に建築家との住まいづくりのプロセスについてや住宅部会が考えるこれからの住まいについてを語る**ことが重要だと思います。その為に、質としても出版に耐えられるものを目指しながらも、出版ありきのスケジュールから逆算するのではなく、まずは部会内で、以下のことについて**お互いに議論、勉強する場をつくること**から始めてはどうかと思います。

(1) 建築家のプロフェッションの倫理について

JIA の社会的責務でもあり、このことは当然確認すべきだと思います。

過去にも 2017 年 9 月 22 日 住宅部会の日 「建築家のプロフェッション」というテーマで斎藤孝彦氏を講師に大川直治さんが聞き役として、プロフェッションについて議論しました。

(2) 住宅部会が考えるこれからの住まいについて

現在の私たちをとりまく環境や社会問題を踏まえて、どのような住まいを目指すべきか。もちろん建築家の考えは様々ですが、ここでは JIA のようなプロフェッションの団体が社会に対して、これからの住まいについて言及すべきことは何かについて議論することが重要だと思います。

また Bulletin でも 2020 年度テーマとなっていました、建築家の業務範囲も社会の要請に伴い変わってきていると思われます。この点についても議論する必要があると思います。